

ホーム&デコール+バイザシー / エルアンドエム  
Yesterday, Today & Tomorrow

アメリカにはこう言うことわざがある。

“If it ain't broke don't fix it!”

壊れていないものは直す必要がない。必要ない直しはいらない。そのままにおいて。例えば、よく走っている車をもっと速く走るためにアフターマーケットの部品をつけること。その部品をつけたから、だめになってしまうこともあるよね。

ここでもう梅雨があがったから、夏にぴったりの音楽を紹介しよう。このアーティストの音楽を聴くと涼しい風が吹きそうな感じするよ。彼の名前はダン・ヒックス。時と場合によって、いろんなバンドメンバーを使っているけど、最終的には彼とバックメンバーなんだ。彼は1969のデビューから音楽を全然変えてない。もし沢山リリースがあるアーティストだったら、飽きられてしまいますけど、彼は時々しかリリースしないから、彼の音楽は商いし、いつも新しい感じがする。

今年の六月に東京ミッドタウンにあるビルボードライブで「ダン・ヒックス」のライブを見に行きました。実は本と「マリア・マルダアー」のライブのはずだったんで彼がゲストのはずだった。でも最初は彼女が何曲を歌った後、彼が出てきたら。そこから彼のショウになってしまったんだ。お茶目親父。歌いながら下手のダンスステップをし始めたり、急にソロをひき始めたりして、お客をエンタテインしてくれた。でも彼は難しい顔をしながら、ギターソロを一生懸命にひいていると思ったら、ギターを下でひいたり、振り回しながらし始めた。でもちょっと変なんだ。よく見てると、彼は全然弾いていないんだ。もう一人のギタリストがアンプの後ろで隠れながら、弾いているんだ。だんだん客もこれに築き、大笑い。

ちょっとジョークが好きそうなやつだ。絶対ステージの前にはいたくない感じ。いつ彼が客をジョークの一つにしてしまうのが怖い。そんなやついるよね。彼はそんなやつ。

彼のデビューは60年代。元々アメリカの初めてのサイケデリックバンドだと言われている、「シャラトンウズ」と言うバンドのドラマーだった。でも「シャラトンウズ」はブルースがベースのサイケデリックジャムバンド。そのバンドの前座の為にもう一つのバンドを結成。でも今度はドラマーではなく、ギターヴォーカルとして活動。そのバンドの名前が[ダン・ヒックス・アンド・ヒズ・ホット・リックス]。メンバーは、編成はダンとバイオリン、ベース、ギター。そして彼とコールアンドレスポンスをする女性ヴォーカル二人。この二人はすごくセクシーで色っぽい声で歌う。

彼の音楽はアコースティックサウンド、カントリーフォークミュージックとジャズのプレージングをベースにして、スウィングやの予想もたっぷり入っている。いろんなジャンルに触る、独特なアコースティック・ヒッピー・スウィング。その上にすごく、ヒューモアもたっぷり。歌声はやる気がない、感じのドライ。パフォーマンスでももちろん、だが歌詞も面白い、例えば、”HOW CAN I MISS YOU IF YOU WON’T GO AWAY”  
[あなたがいなくなってくれないと恋しくなれないじゃない?]

去年発売された“タンゴルド・テイルズ”では彼は全然味を変えてない。壊れていなければ、直す必要はないでしょと言うアメリカのことわざにぴったり。メンバーはかわっているけど、サウンドはかわっていない。そして、いくらボブ・ディランのサブテレニアン・ホームシック・ブルースを間抜けで歌っている。

彼は十枚以上のあるバツムを出しているけど、きっとこの新しいアルバムと1969年の一前めのアルバムのリイシュー、”THE MOST OF DAN HICKS AND HIS HOT LICKS,”だろうね。

この暑い夏に涼しいアコースティックメロウミュージックと一緒に過ごそう。誰かの手を取って踊りたくなるよね。

